

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 76人 国語B 76人

② 算数A 76人 算数B 76人

5 留意事項

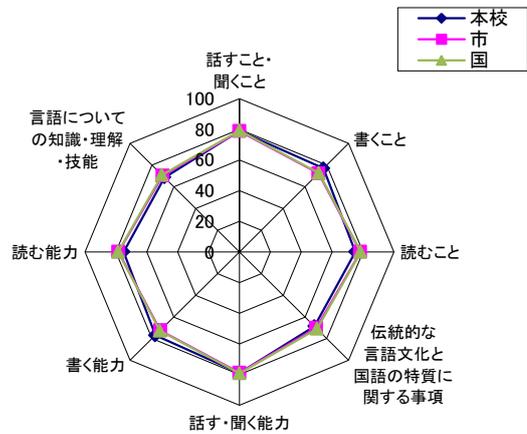
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

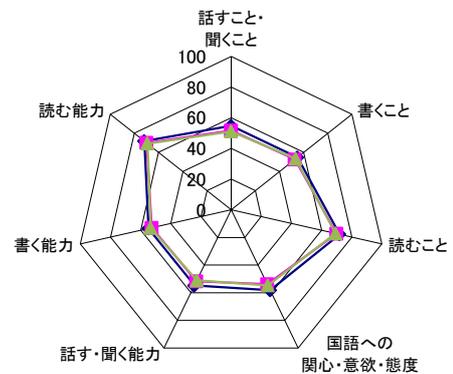
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.9	78.8	79.2
	書くこと	77.0	72.4	72.8
	読むこと	75.0	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.7	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	78.9	78.8	79.2
	書く能力	77.0	72.4	72.8
	読む能力	75.0	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	68.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	54.8	51.7	51.1
	書くこと	54.8	52.7	53.4
	読むこと	71.9	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	58.2	53.8	54.7
	話す・聞く能力	54.8	51.7	51.1
	書く能力	54.8	52.7	53.4
	読む能力	71.9	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

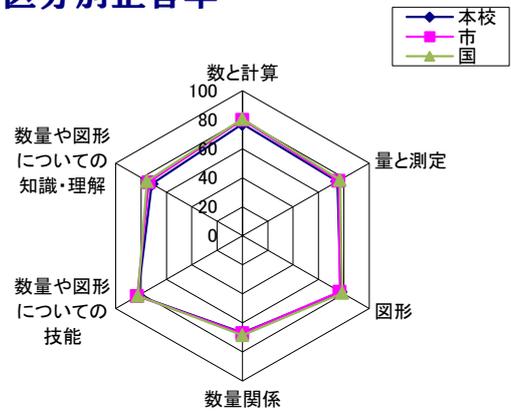
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語Aでは全国平均よりやや低いが、国語Bでは全国平均より3.7ポイント高い。</p> <p>○目的に応じて、相手に質問したいことを整理することができる。</p> <p>○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問をすることができる。</p> <p>●目的や意図に応じて話し合うことが苦手である。</p>	<p>・今後も、朝の1分間スピーチやペア・グループでの話し合いを継続し、話し手や聞き手になる機会を増やしていく。</p> <p>・学校行事や児童会活動などを通して、話し合いの練習をする機会を多く取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、国語A・Bともに全国平均を上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて、書く事柄を整理したり、よりよい表現を工夫したりすることができる。</p> <p>○表やグラフをもとに、自分の考えを書くことができる。</p> <p>●表やグラフから分かったことを書くことが苦手な児童がいる。</p>	<p>・引き続き、作文や新聞づくりなどを生かして、書く指導をしていく。作文指導では、文字数や時間に制限を設け、決められた中で、感想や意見を書く練習を取り入れていく。</p> <p>・国語だけではなく、他の教科でも、表やグラフから分かることを書かせるようにし、正しく読み取れるよう練習していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、国語Aでは全国平均より低いが、国語Bでは全国平均より2.6ポイント高い。</p> <p>○目的に応じて、図と表を関連づけて読むことができる。</p> <p>○自分の考えをもって文章を読むことができる。</p> <p>●文章中の表現から、登場人物の人物像を読み取ることが苦手である。</p>	<p>・毎日の音読や読書を継続していく。ただ読むだけではなく、登場人物の気持ちなども考えながら読むよう指導していく。</p> <p>・登場人物の人物像を的確に読み取れるよう、心情の変化や情景描写などに重点を置いて指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、国語Aで全国平均より2.4ポイント低い。</p> <p>○漢字を正しく書く力が身に付いている。</p> <p>●漢字を正しく読むことができる児童がいる一方、苦手意識をもっている児童も見られる。</p> <p>●ローマ字の読み書きが苦手である。</p>	<p>・漢字ドリルでの反復練習を継続していく。</p> <p>・朝の学習でテストを行うなどして、定着を図っていく。</p> <p>・学習した漢字を平仮名で書く児童も見られるため、その都度漢字を使って書くよう指導していく。</p> <p>・パソコン室などを使って、ローマ字の復習をしていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

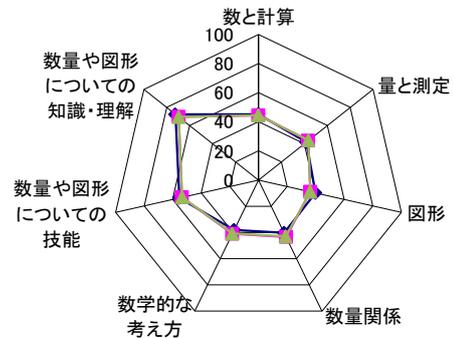
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	77.1	79.9	80.5
	量と測定	75.0	75.9	77.0
	図形	77.6	76.9	78.8
	数量関係	66.7	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	82.4	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	71.5	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	45.2	44.5	44.4
	量と測定	41.8	43.5	43.7
	図形	39.9	36.2	36.3
	数量関係	40.4	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.2	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	55.3	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	72.4	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、算数Bが全国平均よりやや高い。 ○整数・分数・小数ともに、加法・減法・乗法の計算は良くできている。ドリルの反復に力を入れてきた成果であると考えられる。 ●小数の除法に課題が見られる。 ●示された式の中の数値の意味を解釈し記述することが苦手である。</p>	<p>・今後も、基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、個に応じた習熟度別の課題を与えたり、教材の工夫や習熟の機会を増やしたりする。 ・小数の理解や、除法の計算などの学習では中学年の段階から丁寧に指導し、習熟を図るようにする。 ・低学年の段階から、式の意味や見当をノートに記述させ、立式の理解を深められるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、算数A・Bともに全国平均より2ポイントほど低い。 ○三角形の底辺と高さの関係や、角の大きさを基に四角形を並べてできる形など良く理解している。 ●単位量当たりの大きさの理解に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、算数的な活動を多く取り入れ、五感を使った授業を工夫し、理解を深められるようにする。 ・日常の中での単位量に着目し、求めている数値の意味と立式とを関連付けながら理解できるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、算数Bで全国平均より3.6ポイント高い。 ○図形の構成要素に着目して図形を構成することができている。 ○作図の方法が身に付いている。 ●直方体における面と面の位置関係の理解に課題が見られる。</p>	<p>・作図の基本は理解している児童は多いので、今後も個別に習熟が図れるようにT・Tを取り入れた指導の継続を図る。 ・立体図形の位置関係では、中学年の段階から箱分類や、展開図・見取り図などの学習で算数的活動を多く取り入れ、理解を深められるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、算数A・Bともに全国平均より低い。 ○表やグラフに表されている事柄を読み取ることや、式で表現された数量の関係について理解することができている。 ●示された情報の比較量と割合から、基準量を求める問題が苦手である。</p>	<p>・問題の状況を丁寧に読み解き、その関係を図や数直線等に表示して捉えられるように、授業中の指導を心がける。 ・やや複雑な問題を解決できる力も身に付けられるよう、個に応じた問題を繰り返し練習し習熟を図る。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校は楽しいか」という質問に対して「楽しい」と回答した児童の割合は全国肯定回答を2.7ポイント上回っている。
○「国語が好き」と回答した児童は75%で、全国の肯定回答率を16.7ポイント上回っていた。また、「算数が好き」と回答した児童は71%で、5ポイント上回った。本校の児童は、国語科・算数科が好きという傾向にある。
○「国語の授業の内容がよくわかる」と回答した児童が40.8%で、全国を4.5ポイント上回った。
○「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがあるか」の問いに、96%の児童があると回答している。また、「失敗を恐れなくて挑戦しているか」の問いに対して、84.2%の児童が肯定回答をしていて、全国平均をそれぞれ1.6ポイント、8.1ポイント上回っている。

●平日の家庭学習の時間が少なく、「1時間以上勉強をする」と回答した児童は60.5%で、全国平均を2ポイント下回っている。家庭学習が習慣づけられるように指導していきたい。

●テレビやDVDを見る時間が全国平均より長いという傾向がみられる。平日に4時間以上テレビやDVDを見ると回答した児童の割合は21.1%で、全国平均より5.1ポイント高い。家庭での時間の使い方を改善できるよう指導していきたい。